

平成 29 年第 1 回能勢町総合教育会議 会議録

1. 開会日時及び場所

日時：平成 29 年 5 月 30 日（火）午前 10 時 00 分

場所：能勢町役場南館教育委員会室

2. 出席者

町長 上森 一成 教育長 加堂 恵二 教育長職務代理者 市村 依子  
委員 谷 安生 委員 小谷 義隆 委員 堀口 美和子

3. 事務局職員出席者

総務課長 藤原 伸祐、秘書人事係長 百々 孝之

4. その他出席職員

教育委員会次長 寺内 啓二、学校教育課指導担当課長 辻 新造、  
学校教育課主幹 塩出 代茂子

5. 議事の次第

上森町長

（挨拶）

ただいまより、平成 29 年第 1 回能勢町総合教育会議を開催いたします。  
教育委員の皆様におかれましては、公私お忙しい中、ご出席賜り有難うご  
ざいます。

早いもので、能勢小学校・能勢中学校が開校し 1 年が経過いたしました。

本日は、お手元の次第のとおり、児童・生徒の指導状況及び各種調査分  
析の結果を踏まえた現状と課題について、教育委員の皆様と意見交換を実  
施してまいりたいと考えております。

どうか委員の皆様の忌憚のないご意見をお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます前に、能勢町総合教育会議運営  
要綱第 5 条第 1 項の議事録の署名委員を指名したいと思います。

議事録の署名委員については、堀口委員と加堂教育長を指名します。

それでは、議事に入らせていただきます。

（1）児童・生徒に対する指導状況について、教育委員会事務局より説明  
を求めます。

寺内次長

（1）児童・生徒に対する指導状況について（2）全国体力・運動能力、

運動習慣等調査結果を踏まえて（３）能勢町学力学習状況調査分析結果を踏まえての３点についてこの後、担当課長より説明をさせていただくので、いろいろな角度からご意見をいただき、今後の教育に活かしていきたいと考えています。

辻課長 （１）児童・生徒に対する指導状況について、いじめ不登校の資料に基づき説明。

上森町長 この件について、ご意見を頂戴したいと思います。

上森町長 P.2 の分類にある家庭に係る状況は詳細なものはないですか。

辻課長 家庭訪問できる家庭と、しても会えない家庭もあるので把握しにくい家庭もあります。そういう深刻な状態の不登校の事例もあります。

上森町長 家庭の状況も色々あるので詳細な状況まではわからないということですね。

辻課長 先生方も頻繁に家庭訪問されています。中には電話も何回かに１回繋がるとか詳細がわかりにくい子どもがあるという報告を受けております。

加堂教育長 P.4 スクリーニングシートを実施するのは初めてではないですね。

辻課長 初めてではないですが、組織的にこういう観点で見ていこうとなりました。大阪府の取り組み方針でも出され、本町でも取り組んでいくこととなりました。

上森町長 平成 27 年度からいじめの基準が変わり、件数が上がっていますが、平成 26 年度も把握していたが、いじめにカウントしていなかったということですか。

辻課長 平成 27 年度は再編前で、学校の先生方と事例をどう考えるかを議論を重ね、いじめを見抜く感度を上げて見てもらい報告してもらっています。

上森町長 平成 27 年度は旧の学校のまま、平成 28 年度は１校となった、中学生の件数の数字が上がっているのは校長の認識の違いによるものですか。

辻課長	以前と比べて中学校にもそういう目で見えていただく感度が高くなっていると感じています。
上森町長	担当の先生により感じ方が違うのですか。
加堂教育長	いじめの定義が変わって件数が増えたから悪いというのではなく、きめ細かく目が届くことでむしろいいことです。目が行き届かなくなっていくことがむしろ心配するところです。
上森町長	この会議は、再編してから初めてではないですね。学校を再編したメリット・デメリットをこの会議で議論されたことはありますか。
小谷委員	良かったところは小学生・中学生と一緒に通っていく姿が見られて新しい関係性ができています。
上森町長	デメリットはありますか。
谷委員	<p>開校1年目の時に、地域の人から西の子、東の子と表現されるとの声を聞いています。当然、学校は意識をせざるを得ないので敏感に子どもたちを見てこられたと思います。しかし、2年目のジククスというものがあり今年度に問題が出てくるのではないかと心配します。地域は広がったが先生方がよく家庭訪問をされていると説明を伺った。先生方のアンテナを敏感にして見ていただきたい。最初のボタンの掛け違いが後々まで影響してくることが多いです。まず子どもの話をしっかり聞いてもらう、地域が広いですが、すぐに家庭訪問をされた方が良く、あとで繕うのは難しいので、気をつけてやっていただきたいと思います。</p> <p>小学校のいじめ P.3(3)⑥は、上履きを隠したり筆箱を隠したりが考えられます。先生のアンテナは敏感にしておいてほしいです。</p>
市村教育長職務代理者	<p>学校が完成し1年目は子ども様子見などところがあると思います。2年目はきめ細かく見てもらいたいです。平成27年度に文科省から通達もあり、新学校では「ささゆりトラストプログラム」を作られ、先生でチームを組んで対応するとなっているので、前向きに取り組んでいただきたい。簡単に数字だけを見て学校が一つになったからこうなったのではなく、一つになったメリットをいろいろ伝えていきたいと思っています。今年度から始ま</p>

る家庭教育支援チームによる家庭訪問が、切れ目のない子育てにつながると思います。

中学生の P.3 (3) ⑧パソコンによるいじめは予想したより少なかったです。

小谷委員

個々具体も大事ですが、総合教育会議は町長と教育委員会の目指す姿を共有する。能勢町としての評価基準の摺合せ、ベースとして道徳の考え方でいじめに対するその人の理解が変わってきます。どういう認識を持っているかによる。教科書選定の時期になってくるので町長の考えも聞かせてもらったと思います。道徳が必修科目になったのは難しい時代になって時代を反映した教科になってきたこともあります。いじめにしても思いやりを持っていくと違う方向に向くのではないかと思います。能勢町としての道徳の考え方を持って方向性を議論できればよいと考えます。

上森町長

道徳の教科はいつから始まるのですか。

辻課長

今年に教科書採択を行って小学生は平成30年度からで、中学生は平成31年度から始まります。

上森町長

昭和41年に小学校に入学し道徳の授業がありました。昭和44～45年頃に、「にんげん」に変わったと記憶していますが、「にんげん」はいつまであったものですか。

加堂教育長

道徳の時間に、「にんげん」を使っていました。

辻課長

これまでからあったが評価はしていませんでした。道徳が必修科目となり評価しなければいけないです。

上森町長

どう評価するのですか。

辻課長

文章表記はしますが点数化はしません。

上森町長

評点をつけていくことになるのですか。

辻課長

文章表記だけです。

上森町長 評価するのも難しいですね。

辻課長 項目ごとに子どもたちをしっかりと見ていこうと研修も行っています。

小谷委員 道徳を教える先生も難しいと思います。

上森町長 道徳が教科になったのは経過があったんだと思います。

谷委員 「特別の教科道徳」が設けられたことがこだわりでもあるし、時間割にも出てくるので保護者の関心も高まると思います。道徳の中身について地域・保護者の認知は、できていないだろうと思います。そんな中で、マスコミを通じて知ったのは、パン屋を和菓子屋に変える、それで教科書が合格になるのを新聞で知りました、そんなものが道徳なのか疑問に感じます。さし絵や写真を変えれば教科書が合格になる。いじめに起因した命、人権を守るための教科になっていくべき。マスコミで知るだけで本質を知らないことを危惧しています。いじめであるとか仲間づくりであるとか一人ひとりの違いを認めることが大事にされる教科であってほしいです。

町の施策に活かせる場面もあると思いますので、また今回初めてのこともあるので町長も一読してもらって、ひととしての力が付くように地域として育てていくことを大事にしていただきたいと思います。

上森町長 教育長、谷委員の時代は道徳の教科書はなかったのですか。

加堂教育長 教科書はなかったです。

上森町長 小谷さんは覚えてますか。

小谷委員 あったように思います。事例を見ながらそれについてどう思うか述べた記憶があります。

上森町長 教科書の採択はどんなスケジュールで進むんですか。

辻課長 選定は1学期中に行い採択を行います。

小谷委員 教育委員会として決定したものでなく個人の意見になるが、道徳を教えるも家に帰って親がそんなものはいらないと言えば意味がないと思いま

す。そういう環境が大事なところだと思います。キャッチコピーを出していくとかも良いかも知れません。道徳は、相手の立場にどれだけ立てるかが原点と考えます。仕事で茶道と関わりがあり、茶道の世界には和敬清寂という言葉があります。人と人との関係が秘められた言葉です。そういうことも必要であると考えます。

上森町長

ありがとうございます。  
堀口委員何かありますか。

堀口委員

子どもを見ていて実感するところは、新しい学校は人を育てるのに環境が良いと感じるところがあります。教室の配置も開放的となっており、例えば担任の先生に相談できなくても他に先生がいれば覗きやすい環境になっています。そういう環境を活かしていけたら良いと思います。

上森町長

道徳は今後の大きな課題であると考えております。また継続して検討していきたいと思います。

次の議題、(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえてを、教育委員会事務局より説明願います。

辻課長

(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえてを資料に基づき説明。

上森町長

ご意見がありましたらお願いします。

小谷委員

表の見方で、平均はどう見たらいいですか。

辻課長

全国平均は小学校5年生と中学校2年生しかなく、それ以外は学年平均の数値を記載しています。

小谷委員

全国平均で見て能勢の子どもの体力がどうあるか知りたいのと、バス通学になった子どもの追跡があるのかないのか。バス通学になったがために運動量が減ったことも考えられるし、全国平均でみると電車、バス通学もあると思うので、能勢の子どもの体力がどう変化したのか見ていく必要があると思います。

辻課長

昨年度の結果については、平成28年5月のデータをとり2月～3月に

データ報告されます。今年度に計測したデータが再編前と再編後と比較できるデータとなります。今後も追跡していきたいと考えております。

中学生の持久走については全国平均を下回っています。どう体力を上げていくかが今後の体育科の課題になります。

上森町長

小谷委員からバスの話がありましたが、都市部ではどれくらい歩いているかわかりますか。

辻課長

1 kmか2 km程度で3 kmも歩いていないと思われます。

加堂教育長

大阪府平均と比較すると全国の方が良い結果になっています。

上森町長

私ごとになりますが、長男は幼稚園までは肥えていたが、小学校に入学して歩くようになって痩せてきた。歩くことでそれほど変わることには驚いたことがあります。全国平均、大阪府平均と比べるとそんなに変わらない理解でいいですか。

辻課長

全国平均よりは全種目の中で半分上がって半分下がっています。持久力が落ちていることに危惧をもっておりますし、持久力を付けるためにどうしたらいいか課題として取り組んでおります。

小谷委員

学校外のフィールドを使ってサーキットランをすると聞いていたが、されていますか。

辻課長

学校外サーキットランはしていませんが、クラブでは観覧席を利用するなど工夫したトレーニングをされています。小学生低学年は段差が高いので無理がありますが、中学生は体育授業の時に、グラウンドをできるだけ広く使ってランニングされています。

小谷委員

以前の小学校なんかでグラウンドを走って全国を周回するという事もやっておられたと思いますが、バス通学になって朝登校してからそういうことができますか。

辻課長

8時にバスが到着し8時10分から授業となります。放課後もバスの時間も以前より条件としてはよくないです。

休み時間をうまく利用してやっていければと考えます。

上森町長	中学生はクラブを全員されていますか。
辻課長	ほぼ全員がしています。
谷委員	資料にありましたとおり、女子の方が全国平均と比べてボール投げが前年より落ちています。今年また落ち込むことがあれば、これまで行われていたソフトボール大会が実施されなくなった影響があったことになると思います。何らかの対策が必要になってくると思います。
辻課長	ボールを投げられなかった子が指導により投力を付けていただいていたということだと思います。ソフトボール大会はなくなりましたが、体育指導員の協力により新校でもソフトボール指導をしていただいております。
谷委員	別の機会を作らないと、ボールを投げる機会は減ってくると思います。
市村教育長職務代理者	運動することが好きな子とか体育が好きな子が増えていけば良いと思います。しっかり食べることで体を作るとか、町長のお話にもありましたが、肥満の子が増えていないかも大切です。新しい学校はバス通学の子どももバスを降りてから階段を上がって教室まで歩いていきますし、学校の校舎も広いので歩く歩数はあるように思います。
上森町長	小学校はクラブないですね。
辻課長	毎日のクラブ活動はありませんが、月1回程度それに代わる活動をしています。
上森町長	また、今年のデータも分析いただいて検討していきたいと考えます。 次に、(3) 能勢町学力学習状況調査分析結果を踏まえてについて、教育委員会事務局より説明願います。
辻課長	(3) 能勢町学力学習状況調査分析結果を踏まえてについて資料に基づき説明する。
上森町長	わかりにくい部分もあったかとは思いますが、質問を頂戴できたらと思



	います。
	「同等、課題」という表現は、全国的にこの表現ですか。
辻課長	どこの学校か特定される場合はこのような表現となります。
上森町長	池田市などの場合はどうされていますか。十数校の中の1校になりますか。
辻課長	市町村に複数学校がある場合は、それぞれの市町村の平均点が公表されます。市町村で1校しかない場合は、その1校が特定されるので数値は公表しないことになっています。
上森町長	そうすると1自治体に1校なのはレアなケースになりますか。
谷委員	府下でいうと田尻町も1校しかない。
上森町長	これだけを見ても分かりにくいですね。
堀口委員	漢字検定の取組みもあって漢字は強いですが、発展する問題、応用する問題に活かしてないのではないかと思います。立派な図書室を整備していただいているのですが、図書室を利用できているかが気になります。夏休みの宿題に他の自治体のお話を聞くと読書感想文があると聞きますが、能勢ではあまり聞きません。それがどう影響してくるのかと思います。文章を書くというのが、高校受験の時にアドミッションポリシーを書いていくときもあって、慣れていないと自分のアピールを上手にしないと活かさないのが気になるところです。
辻課長	<p>能勢町の場合、読書感想文は学校により違いがありました。必ずする学校もありました。新校で掘めていませんが、していなかったとしたら、それを踏襲されていると思います。</p> <p>図書室の利用状況ですが、図書委員が休み時間に貸し出しを行っています。図書室の陳列についても、新聞も掲示したり、毎月ディスプレイを変えるなど趣向を凝らしてもらっています。</p> <p>立派な施設ですので活用していきたいと考えています。</p>

上森町長	試験の結果については、子ども一人ひとり点数を知っていますか。
辻課長	知っています。
上森町長	自分の点数と全国平均の点数も子どもは分かっていますか。
辻課長	分かっています。これまでは大阪府学力調査のA・B・C問題があり、3年前から各教科に広げて小1から中2まで実施しています。
上森町長	中学校3年生はチャレンジテストをされていますね。
辻課長	それもありますし、全国学力テストが必ずありますので。
上森町長	自分がどこにいるか位置を知り、全国での位置を知ることが大事と思います。
加堂教育長	結果を見れば自分の位置もわかるし、強み弱みもわかるようになっていきます。
辻課長	個人ごとの結果がわかることで学校としても個人の結果に対応した問題プリントも作れます。全ての先生が使えるように、今後、学力担当会議等で使い方等も周知して、取組みを進めていきます。
上森町長	中学3年生は高校進学の時期であり、公立か私立を選択する必要があります。私の時代は実力テストがありましたが、今もありますか。
辻課長	今もあります。
上森町長	以前に、ある学校の点数の評価が低いこともあったと聞いたんですが、実力テストの問題が簡単なことはあったんですか。
辻課長	あったと聞いています。今は府全体で評価の公平性・妥当性をはかり、チャレンジテストも導入して改善しています。
上森町長	そうすると今の子どもは自分の立ち位置はしっかり分かっているわけですね。

加堂教育長	取組んできたことには効果が出てきていますよね。漢字検定、英語検定を取組んだ効果が出てきています。自分で結果を理解することも大事ですが、学校が分析をして対応する、それを教育委員会が支援することが大事です。
上森町長	学力は関心ごとですので、どうしても気になる部分になります。
市村教育長職務代理者	学校を訪問した際、中学3年生の理科を見させていただいたことがあります。その中で2年生でのこの事がこう繋がっていると説明されていた。先生の縦持ちは是非やってもらいたいと思います。
辻課長	若い先生が増えてきてベテランの先生の技術をどう繋いでいくかが課題です。初めて教壇に立つには、研修や打ち合わせが重要となります。5年未満の先生を対象に、町でフレッシュ研修をおこない、初任者には人事協で研修を実施しています。
上森町長	任用して5年未満の方が10人おられる。役所でいうと新人に値し、経験値が浅いので教育というか研修が大切と思います。
辻課長	先生の教育が子どもに直結することになるので重要です。
上森町長	新たに先生になる人も、子どもも大変だろうし。
加堂教育長	学年団の考え方も、能勢では2クラス編成になっているので団の発想を変えて考えた方が良いかもしれない。
市村教育長職務代理者	若い先生の割合が増えているのは、能勢だけではない。
辻課長	以前はワイングラスのような形でしたが団塊の世代が退職となり、こういう形となっています。
上森町長	いじめ不登校の問題について、若い先生のいいところもあるが、経験値が足りないところもある。学校内での問題でもあるので立ち入れない。
辻課長	再編前から能勢町教育委員会主催の研修会を実施しています。再編後も

引き続いてやっています。

上森町長 学校以外の組織は担当がいて係長、課長がいます。学校はフラットな組織ですが、上司に相談されることは日常的にありますか。

加堂教育長 相談はできるが係長、課長ではなくフラットですから先輩として教えることはある。

上森町長 スクールカウンセラーの相談実績を見ると教員も相談されている。首席がどうフォローするのがあるのかなと思います。その辺どうですか。

加堂教育長 職場の雰囲気ですが、皆同じ仕事をしているので悩みを出し合ったりしやすい。相談する機会はあると思います。

辻課長 新しい学校になって先生が忙しくなっています。声掛けする人が多ければ多いほど良い職場になっていくと思います。

上森町長 職員室が1つになっていますが、あの方が良いですか。

辻課長 良いと思います。何かあったときに兄弟関係などの子どもの情報が入りやすく組織対応しやすいです。

塩出主幹 スクールカウンセラーの相談件数ですが、子どもの情報を共有する上で先生としての相談件数が増える傾向にあります。

上森町長 先生に悩みがあつて相談されているのかと懸念していましたが、そうではないんですね。

辻課長 1人で抱え込まないで組織で対応することが大切です。

上森町長 経験年数が3年と30年では対応も違うので、経験がある人は上手く助言するべきだと思います。

小谷委員 学校訪問した際に授業を見せていただいています。先生方は同僚性で立ち位置が同じであり、技術を持った集団ですが、経験値も持っておられるものも違う。

そういう意味で、授業スタンダードであったり、経験値がある人とこれからの教育を上手くミックスされていく方がいいのかなと考えます。悩みを抱え込んでしまわずケアすることも大事です。

上森町長

メンタル的についていけない人、学校の場合、子どもの両親の問題もある。ケアは大事と思います。

谷委員

一つははじめで P.4 校内委員会、ケース会議で広く意見を聞いたりすることが大事かなと思います。

開校後 1 年見せてもらっていますが、能勢の先生は丁寧すぎるぐらい少人数でされていたことを引き継ぎされています。能勢の子どもたちはすごい力を付けているのは実感します。数字に表れない部分ではありますが、能勢の子は凄いいと思います。

小谷委員

たぶんその他に入っていると思うんですけど、小・中一貫、中・高一貫。能勢高校は豊中高校の分校として残ることが決まりました。廃校などの危機があった訳ですけど、町長として思いを持っておられると思うが、高校と行政のつながりを持っていく必要があると感じています。高校の町営化も選択肢の一つにはあったし、それぐらい思わないといけない状況にある訳なので、町に関わりを持ってもらうことが必要ではないかと思う。

上森町長

能勢高校の存続が議論されていたときは町におらず詳しいことは分かりませんが、私の感覚では、町営を望まれている住民の声は少なかったと思っています。能勢に高校が残ることになったのは良かったと思っています。町の財政力を考えても町として高校を持つ力はないと思います。

まずは中学校の教育が大事であると考えています。70人の定員を割れないことが重要になってきます。中学3年生が何人おられるかにもよりますが、仮に60人が能勢高校に進学しても定員が割れることになります。能勢の子が能勢高校に進学するのが30人しかないと残りは町外から来てもらうしかないので、町内からどれだけの子どもが能勢高校に進学するのかを整理することが必要と考えます。成績上位の子どもが能勢高校に行ってくればよいが、子どもの意思、親の意思もあると思います、中学校のレベルを上げることが能勢高校のレベルを上げることにつながるので、まず中学校の学力向上に傾注すべきと思っています。

小谷委員

いずれにしても、能勢の学校に通うのが中学で終わってしまうのと、高

校まで能勢の高校で過ごすのでは違ってくると思います。貧困や経済力から高校に行けないことにもなりかねない。町政運営方針で述べておられる消滅可能都市に能勢町が挙げられていることに対し憤慨されている部分は、私も同意見です。能勢の地には人がしっかり生きており、町として必要な施設が失われることはあってはいけません。火葬場も必要なものと考え新たに施設を造られた。それと同じように高校もそのぐらいに考えて中学からしっかり考えていくべきとの意見を一緒になってやっていきたいと思いません。

上森町長

底上げが一番大事で中学校からの授業が重要と考えます。

市村教育長職務代理者

今年度から始まる家庭教育支援で家庭訪問を小学校3年生までされていますが、中1ギャップでつまづく子どもが多いので、中学生まで訪問を考えてもらいたいと思います。

上森町長

今年度から制度を作りまして、まずは小学校3年生までで進めています。課題を抱えている子があるのも事実ですので、丁寧な対応を考えたいと思います。

辻課長

児童については開校時より小学校で14人の転入があり、転出と相殺しても児童数が増えているので、減少率は鈍化しています。

上森町長

転入は本来帰ってくる子も含めていいことだと思います。みんなで頑張っ一つにしたものですので、学校が一つになったスケールメリットを出していかないといけないと思います。

次に、その他について教育委員会事務局より説明願います。

谷委員

町報にも6月号小学校運動会のコラムも載りましたが、1校になったので記事を書きやすいと思います。

町報に折込の「ゴミ」カレンダーにも学校行事を入れてもらえるようなことを考えてはどうか。

上森町長

今度、入れると言ってなかったですか。

寺内次長

向井校長からの発案で、A4サイズの記事を折込されます。小・中・高のそれぞれの取組みを載せていきます。それ以外にも工夫をしていきたい

と考えます。

堀口委員 いろいろと取組まれているのに保護者に伝わっていないのはもったいないです。広報に載せていただくのは良いことだと思いますし、保護者も安心されると思います。

上森町長 なかなか伝わりませんからね。

小谷委員 能勢高校のSGHの取組みで手をかければ伸びるのは分かっていると思う。

上森町長 昨日、某大学の教授とお話ししましたが能勢高校が豊中高校の分校になったことに注目されておられた。

寺内次長 今後の予定ですが、現行の教育大綱が平成29年度までとなっていますので、次の教育大綱を策定する必要があります。今年12月ないし1月に現在の教育大綱の振り返りと次期教育大綱の素案について協議いただき、年度末の3月に教育大綱の決定を協議できればと考えています。

上森町長 この教育会議は、年間おおむね何回か決まっていますか。

寺内次長 特に決まっていません。教育大綱については総合教育会議で協議するとなっておりますので、開催をお願いするものです。

上森町長 それでは、ご意見も出尽くしたようですので、本日の会議は終了します。多岐にわたるご意見ありがとうございました。

(閉会 午後0時20分)

上記は、会議の経過(要旨)を記したものであり、これを証するためここに署名する。

委 員

委 員